

平成26年度全国学力・学習状況調査

結果の概要及び分析

(中学校)

平成26年4月に、小学校6年生・中学校3年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」結果の概要及び分析をまとめました。本調査により測定できる学力は一部であり、教育活動の一側面にすぎません。

各学校が児童生徒の学習・生活の実態を踏まえながら、各学校における教育課程や学習指導の充実・改善、児童生徒の一人一人の学習改善や意欲的な学習態度の育成につなげるための指標として提示します。

平成26年度全国学力・学習状況調査結果 中学校・国語

◆結果 国語A（主として「知識」に関する問題） 国語B（主として「活用」に関する問題）

区分	国語A			国語B		
	久喜市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)	久喜市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
全体	79.3	79.4	79.4	51.2	51.5	51.0
話すこと・聞くこと	73.5	72.9	72.3	—	—	—
書くこと	84.4	84.1	83.4	42.3	41.7	41.0
読むこと	83.6	83.9	82.9	49.9	49.9	49.2
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	77.6	78.0	78.7	55.5	56.7	56.8

◆成果と課題（○：成果について ●：課題について）

内容別結果については、書くことは、全国・県正答率を上回っている。解答方法については、国語Aの選択式及び国語Bの記述式について全国・県正答率を上回っている。伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については、全国・県正答率を下回っている。

【成果が見られる点】

- 多様な方法で材料を集めながら考えをまとめること
- 書いた文章について意見を交流し、文章を書き直すこと
- 複数の資料から必要な情報を読み取ること

【課題のある点】

- 漢字の読み書き
- 語句の意味を適切に書くこと
- 古典に登場する人物や作者の思いを想像すること

◆指導改善のポイント

- 既習の漢字を積極的に使用したり、知らない熟語の意味をその漢字の訓読みから推測したりする機会を意図的に授業に取り入れる。
- 話や文章の中で実際に使われている語句の意味を考え、似た意味を表す別の言葉に言い換えるなどの指導を行う。
- 作品全体に表れたものの見方や考え方などについて自分の考えをもつことが、作品の内容を一層深く理解することにつながる。作品を読んで、気になる言葉や場面などについて、根拠を明確にして自分の考えを書き、根拠の妥当性について意見を述べ合う学習活動をする。古典や近代文学等、様々な時代の作品に触れる機会を設ける。

平成26年度全国学力・学習状況調査結果 中学校・数学

◆結果 数学A（主として「知識」に関する問題） 数学B（主として「活用」に関する問題）

区分	数学A			数学B		
	久喜市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)	久喜市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
全体	66.2	66.2	67.4	59.3	59.3	59.8
数と式	75.3	76.4	77.4	53.0	54.8	56.9
図形	65.7	65.6	66.4	59.0	58.9	58.6
関数	57.9	56.4	58.0	65.5	64.0	64.4
資料の活用	57.1	56.5	59.1	53.8	54.9	55.9

◆成果と課題（○：成果について ●：課題について）

数学A、数学Bともに県正答率と同程度である。内容別結果については数学Bの「図形」「関数」の項目において全国・県正答率を上回っている。

記述式の問題については、正答率が44.1ポイント（全国は44.8ポイント）と、課題がある。

無答率は全国と比べて低い傾向にある。

正答率の高い生徒の割合が低い。

【成果が見られる点】

- 数量を文字式で表すことや式の値を求めること
- 一次関数を利用して問題を解決すること

【課題のある点】

- 構想を立てて証明し、証明を振り返って考えること
- 資料を度数分布表に整理すること

◆指導改善のポイント

- 日常的な事象を数学的場面に置き換えて考える活動や、問題解決のために図を利用して、言葉で説明することができる活動を取り入れる。
- 図形の学習では、用語を大切に指導するとともに、実際に作図をする場面を多く取り入れるなど、実感を伴って理解できるよう丁寧な指導を行う。
- 証明の方針を立てるため、結論を導くためには何が分かればよいかを明らかにし、性質や関係を見いだす活動を充実させた授業を展開する。また、証明を振り返り、証明の過程で見いだした事柄や証明された事柄に着目し、新たな性質を見いだすことができるか考える場面を取り入れる。
- 資料の活用については、日常生活から実際のデータを収集して整理し、それぞれの代表値の必要性和意味について、実感を伴った理解が得られるような場面を取り入れる。

平成26年度全国学力・学習状況調査結果 中学校質問紙調査

◆結果 (特徴のある項目を抽出 数値は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまるの計)

	久喜市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
家で、自分で計画を立てて勉強していますか。○	49.3	47.7	46.6
自分には、よいところがあると思いますか。○	70.1	66.6	67.1
将来の夢や目標を持っていますか。○	72.1	72.0	71.4
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで電話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く) ※2時間以上の割合 ●	38.8	33.6	35.4
学校の規則を守っていますか。○	95.6	93.7	93.0
1. 2年生のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。○	66.6	58.8	53.3
家で、学校の宿題をしていますか。●	84.6	85.8	88.2

◆成果と課題 (○：成果について ●：課題について)

【成果が見られる点】

- 「自分で計画を立てて勉強する生徒」の割合が高い。
- 「自分にはよいところがあると思う生徒」の割合が高い。
- 「授業の最後に学習を振り返る生徒」の割合が高い。
- 朝食摂取率は95%と全国・県平均よりも高い。

【課題のある点】

- 携帯電話やスマートフォンを1日2時間以上使用している割合が高い。
- 「家で学校の宿題をしている生徒」の割合が低い。
- 学校の授業などで自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと回答した生徒が67%を超え、全国・県平均よりも高い。

◆指導改善のポイント

- 自分で計画して家庭学習に取り組む生徒や、予習復習をしている生徒は、全国・県の平均よりも高い。宿題についても確実に家庭学習で取り組む習慣をつけさせる。
- 協働学習を意識した自分の考えを述べる場を取り入れた授業の工夫をする。文章で表現することに抵抗感を取り除くために、日常的に継続できるノート指導を行う。
- 「早寝早起き朝ごはん」を基本とした規則正しい生活習慣について定着が図られてきている。今後とも家庭と連携し、継続して指導に取り組む。
- 授業の最後に学習を振り返る生徒は66.6%と国や県平均よりも高いが、教師に対する同質問では100%となっている。授業のまとめを生徒自身が意識して取り組める授業展開の工夫をする。
- 自分にはよいところがあると思う生徒の割合が高く、教育活動の中で自尊感情が養われていることが分かる。今後もより一層生徒を主体とした教育活動を展開する。
- 「子どもたちがスマホ・ケータイを上手に使う久喜市のルール」をもとに、家庭と連携しながら、携帯電話やスマートフォンの使い方について継続して指導する。